

# 第76回全国装蹄競技大会

## 造鉄競技（07タイプ前肢または後肢ペア）

### 審査ガイドブック

#### 1. 失格

1. 担当の競技委員が競技の開始を合図する前に競技行為を行なったとき
2. 規定時間を超過したとき

#### 2. 審査項目および配点

| 審査項目          | 配点   |     |
|---------------|------|-----|
|               | 左    | 右   |
| ①蹄鉄の形状        | 10点  | 10点 |
| ②鉄尾端の処理       | 10点  | 10点 |
| ③溝と釘眼の適合度     | 10点  | 10点 |
| ④蹄鉄の平坦性       | 20点  | 20点 |
| ⑤釘眼・釘孔の配置     | 20点  | 20点 |
| ⑥鉄唇の形状と配置     | 10点  | 10点 |
| ⑦仕上がり（内外鉄枝処理） | 15点  | 15点 |
| ⑧左右の均一度       | 10点  |     |
| 計             | 200点 |     |

#### 3. 審査項目の詳細

##### ①蹄鉄の形状

- 造鉄製品の形状が理想的か。
- 鉄頭部と鉄枝の幅、厚みのバランスが整っているか。
- 鉄頭部の幅が鉄枝と同等以上であるか。

##### ②鉄尾端の処理

- フィッシュマウス状の成形不良がないか。
- 鉄尾内縁の傾斜角度が適切であるか。

### ③溝と釘眼の適合度

- 溝の深さと幅が、鉄頭部側の引き始めから第3釘眼まで整っているか。
- 上記の幅と適合蹄釘短縁が一致しているか。
- 第3釘眼より鉄尾にかけて、溝の流れがスムーズであるか。
- 溝の深さが、浅すぎたり深すぎたりせず、蹄鉄の厚みの2 / 3程度に設けられているか。

### ④蹄鉄の平坦性

- 釘孔から外側領域の厚みが、釘孔より内側の領域よりも厚く均一で、上下面ともに打痕や過灼等による凹凸がなく平坦であるか。
- 外縁部の厚みは8mm以上を目安とし、外縁部が内縁部より厚く、その厚みが確保されているか。
- 釘孔より内側の領域の傾斜と厚みが均一であるか。

### ⑤釘眼・釘孔の適合度

- 第1釘眼は鉄頭部内縁の接線上に配置されているか。
- 第3釘眼が最大横径部に配置されているか。
- 各鉄枝の釘眼の間隔が均等であるか。
- 第3釘眼が最大横径部より鉄尾側に配置されたものは最大横径部より鉄頭側に配置されたものより減点の度合いが大きいものとする
- 釘孔の位置が適切であるか。
- 釘孔の内偏は外偏よりも減点の度合いが大きいものとする。
- 差込んだ蹄釘がぐらつくことがないか。
- 釘頭が出過ぎたり深く入りすぎたりせず、適切に釘眼に収まっているか。

- 釘頭の入りすぎは、出過ぎるものよりも減点の度合いが大きいものとする。

#### ⑥鉄唇の形状と配置

- 鉄唇の鍛出位置が適切であるか。
- 鉄唇の形、高さ、幅、厚さが適切であるか。
- ピンハンマーによって作られた窪みや鉄唇鍛出部外縁が適切に整えられているか。
- 鉄唇が装蹄時の状況を模して傾斜しているか。また鉄唇の傾斜に過不足がないか。

#### ⑦仕上がり（内外鉄枝処理）

- 蹄鉄は接地面および接蹄面ともに内外縁は角張っている部分があつてはならない。
- 材料の打縮（据込み）、鍛伸は選手の任意とするが、鉄頭部、鉄枝の幅、蹄鉄の厚さなどが合理的な調和を保ち、蹄鉄としてのバランスが維持されていなければならない。なお鉄頭部の幅は鉄枝と同等以上でなければならない。
- 打痕、過灼、角張った部位、その他凹凸が無く、表面がつややかでなければならない。
- 鉄頭部接地面外縁に設ける追突防止処理の幅や角度が適切に整えられているか。
- 内鉄枝外面が、第2～第3釘眼の間から鉄尾端にかけて、適切に下狭に成形されているか。
- 剰縁・剰尾に該当する領域の面取り（Boxy）が内外鉄枝共に適切であるか。

#### ⑧左右の均一度

- 左右の蹄鉄が合わせ鏡の様に一致しているか。